

2019年10月23日～10月28日



同行した介護職員の感想

〇来たるべき日のためにインドネシアの方々の日常や人柄、文化を知る
10月23日～10月28日の6日間、彩幸職員3名でインドネシアの現地視察へ行ってきました。
インドネシアの首都ジャカルタは、ビルや店舗・タワーマンションが立ち並び日本の東京や名古屋等の街とほとんど変わらない風景で、交通量は日本よりも車が多いが、信号は日本よりも少なく、道路があちこちで渋滞していました。
また、走っている車やバイクも95%が日本製でまるで日本の道路を見ているようでした。

私達は、ジャカルタから車で8時間程掛かる西ジャワ州にある「チレボン」の街へ行きました。チレボンの街はジャカルタとは違い、インドネシアの中では田舎にあたるのか、ビルやマンション等はほとんど見られません。
また日本人がチレボンの街へ来る事はとても珍しい事で、街を歩くと「私と一緒に写真(スマホの写メ)を撮って下さい」と若い女の子達から何度も声を掛けられたり、歓迎の握手をして下さったりと…とても暖かく私たちを迎え入れて下さいました。
一緒に撮った写真は、Instagramやブログで使用すらしく、「若い子達のすることは日本もインドネシアも同じなんだなあ」と感じました。
チレボンの方は、何より街のみんなが笑顔で、活気がみなぎっていました。インドネシア語の話せない私達を全力で歓迎して下さいました。

その後、私達は「日本語学校」を訪問。
そこでは、日本で働いてみたいと思っている子達が一生懸命に日本語を学び、ほとんどの子が、実家を離れ日本語学校の寮で生活をしていました。
彼等には「夢」がありました。

- 「親に家を建ててあげたい」「両親の持つ牛小屋を建てなおしてあげたい」
「お金を貯めてインドネシアで病院を開き街のみんなの助けになりたい」
「親の行っている商売の為に新しい会社を建てて大きくしてあげたい」
…みんな、自分だけの夢ではなく家族や国を想う夢でした。
その夢の為、難しい日本語を懸命に学び真剣に取り組んでいます。



「Yuuki ini baru 1 tahun berdiri tepatnya 11 Agustus 2018 yang bertujuan untuk mengurangi angka pengangguran. Kebetulan saya 6 tahun di Jepang jadi perawat di rumah sakit. Saya bersyukur dipertemukan dengan pak Ajat

インドネシアは日本よりも貧富の差も激しく、日本のように保障された制度が整っていないかも知れませんが、夢と活気にみなぎった国であることは間違いありません。
今回の視察で「初めて海外へ行く!!!」…と言う経験以上に、人の温かさに触れ自分自身を見直す事ができました。

また、彼らであれば、一生懸命仕事に取り組み、多くの優しさや笑顔を利用者様にお届けすることができると感じました。

視察者：事務長 村松 寛泰
介護主任 佐藤 直宏
介護主任 二橋 有美子



豊川 彩幸

ケアハウス

デイサービスセンター

居宅介護支援事業所

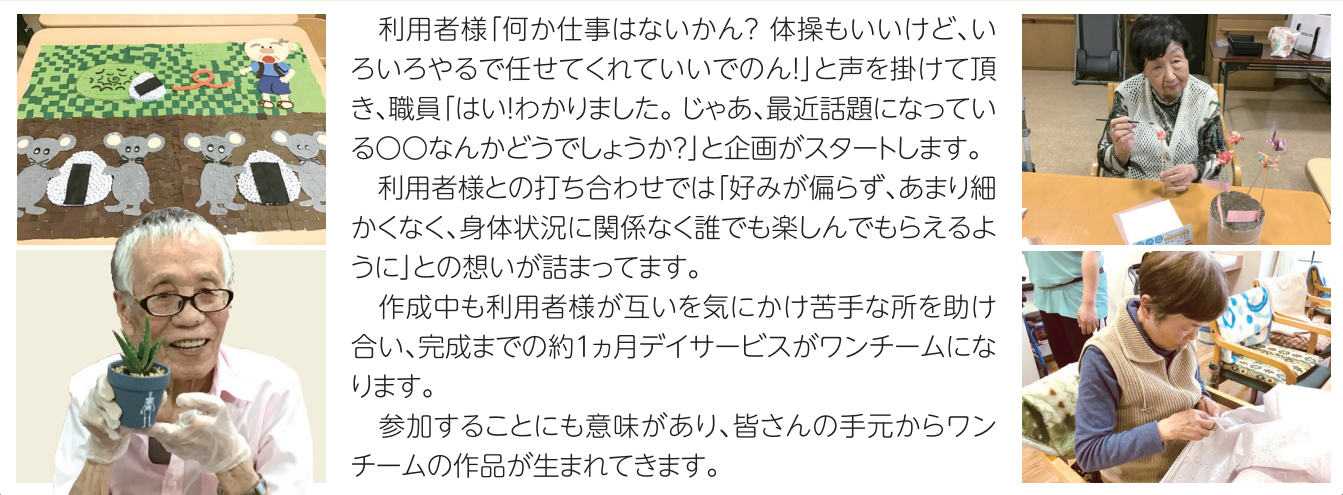
豊川 ケアハウス豊川 彩幸 職員日より 「四季折々 ～しきおりおり～」



ケアハウス豊川 彩幸：四季折々 ～しきおりおり～

ケアハウスでは入居者様と一緒に定期的に行事を開催しています。行事とは節分やひな祭り、クリスマスなど施設全体で行われるものをいいます。単調になりがちな施設での生活に季節感や生きがいを感じてもらえます。
ケアハウスで特に人気のある行事がお茶会や外食行事です。
おいしい料理を食べながら入居者様同士を繋げるコミュニケーションの機会を提供させていただきます、これからも楽しんででもらいたいと思っています。

豊川 デイサービスセンター豊川 彩幸 職員日より 「ワンチーム」



利用者様「何か仕事はないかん? 体操もいいけど、いろいろやるで任せてくれていいのん!」と声を掛けて頂き、職員「はいわかりました。じゃあ、最近話題になっている〇〇なんかどうでしょうか?」と企画がスタートします。利用者様との打ち合わせでは「好みが偏らず、あまり細かくなく、身体状況に関係なく誰でも楽しんでもらえるように!」との想いが詰まっています。
作成中も利用者様が互いを気にかけて苦手な所を助け合い、完成までの約1か月デイサービスがワンチームになります。
参加することにも意味があり、皆さんの手元からワンチームの作品が生まれてきます。

豊川 居宅介護支援事業所豊川 彩幸 職員日より 「知恵から学ぶ」



私たちケアマネジャーは、毎月身体の状態やサービスの状況などを確認しに利用者宅を訪問し色々な話を伺っています。人生の大先輩である方々から色々な事を学ばせて頂いていると感じる今日この頃です。
ガーデニングや野菜作りを頑張っている方、ぬか漬けや旬ご飯にきんぴら、切り干し大根、梅ジュースなど旬の食材を使った料理をしている方、庭で育てた花をドライフラワーにして飾る方、姉妹で毎週集まってつまみ細工を作る方など。聞くだけでなく実践をと、私も自宅挑戦しています。上手くない時はまた相談。コツを教えてもらってさらに腕が上がり。
(笑)花の苗の安い店、良い肥料、旬のアクの抜き方、ぬかの味がやる人の手によって変わる事、私が作った料理や作品を見て皆さんが笑顔になることに幸せを感じます。仕事を通し色々な事を学べるこのご縁を大切にしていきたいです。(5)



高齢者でお困りごと、入居・利用の相談等、お気軽にお問合せ下さい。
社会福祉法人豊生会 https://saikou.or.jp/
【彩幸】豊橋市西赤沢町字深山95番地 TEL.0532-23-6011
【大清水 彩幸】豊橋市東大清水町181-1 TEL.0532-25-3361
【豊川 彩幸】豊橋市森6丁目66-2 TEL.0533-98-9771

人はそれぞれの個性を持って生まれひとりとして同じ人生を歩む人はいない生まれも育ちも違う人達が集う施設だから自分色の光を輝かせながらお互いの色を重ね合わせる虹のようにここで「幸せの彩り」を輝かせてほしい



Vol.3
2020年2月発行
豊生会 彩幸発行
機関紙「仁志」

社会福祉法人 豊生会 彩幸
https://saikou.or.jp/



理事長 原田 昭司

彩幸で虹色の幸せを

代でモーターリゼーションの進展とともに交通事故が多発し、第一次交通戦争とも呼ばれた時代でもありました。さらに、テレビ、冷蔵庫、洗濯機の電化製品が三種の神器と言われ、各家庭に浸透していき活気のある時代でした。
その豊かな時代の礎を築き、戦後の荒廃から血のにじむような努力と汗を流し頑張ってくれた人達が、今、私たちがお世話させて頂いている「利用者様」です。私たちは、今までのご苦労に少しでも報いられるように心を込めて介護、介助をしていかなければなりません。そこで、当時の結婚披露宴の席で「と」との「の」の使い分けをスピーチされた主賓者があったことを思い出しました。「僕と妻」「僕とお母さん」「私の旦那様」「私のお母さん」皆さんは、どちらの言い方が心がかもっていると感じられるでしょうか。「と」と平等、対等に感じられ「の」だと温かさ、大切さが滲み出てくるように感じられませんか。
「彩幸職員は、「の」の心を大切に!」私の利用者様「私の彩幸」という気持ちでどんなふうな仕事でも立ち向かって行く勇氣と熱い心を持ってご利用者様と向き合っています。ご利用者様と彩幸職員が虹の架け橋で結ばれ「この職員に任せれば安心だ。彩幸で暮らしてよかった。」と言ってもらえる幸せいばいな施設「彩幸」を目指しています。

「文化祭に展示するので結婚式の写真を提供して下さい」との職員の呼び掛けに、タンスの奥に眠っていた50年前の写真を引っ張り出ししました。当時、24歳で若々しい頃の自分と久しぶりに対面することができ、しばし50年前にタイムスリップしてみると日本は高度経済成長時代

彩幸
●特別養護老人ホーム ●ショートステイ
●デイサービスセンター ●経費老人ホームケアハウス
●居宅介護支援事業所 ●地域包括支援センター
〒441-3213 豊橋市西赤沢町字深山95
TEL.0532-23-6011 FAX.0532-23-6010

大清水 彩幸
●地域密着型特別養護老人ホーム
●グループホーム
〒441-8131 豊橋市東大清水町181-1
TEL.0532-25-3361 FAX.0532-25-3707

豊川 彩幸
●経費老人ホームケアハウス
●デイサービスセンター ●居宅介護支援事業所
〒442-0846 豊橋市森6丁目66-2
TEL.0533-98-9771 FAX.0533-98-9772

特集 インドネシア視察



〇インドネシア視察について

生産人口減少が進み、介護業界のみならず、多くの産業で担い手が不足しており、今後、更に悪化が懸念されます。
ICTやロボット活用と平行して、外国人雇用を進め、産業の空洞化を防ぐ施策が多く打たれておりますが、介護業界でも、既にEPA、留学生、技能実習制度等により多くの外国の方の力をお借りしている団体も増加しています。
少子化に歯止めのかからない社会において、介護に就く学生も確実に減少しており、近い将来、私共も必ず、彼らの力を必要とする時代が来ると予期しています。
ただ、単純労働力として受け入れるのではなく、これから高齢者を支えていく、共存できる仲間として彼らを受け入れたいという想いと、現場の介護職員が彼らを知ることが重要であると思慮し、視察をして参りました。





豊橋 特別養護老人ホーム 彩幸 職員より「食欲の秋を大満喫!!」



「～食欲の秋を大満喫!! 心もお腹も虹色の幸せ～」

11月21日のおやつは、バイキング形式でケーキを提供させていただきました(写真の左・中央)。

彩幸 特別養護老人ホーム ショートステイ

豊橋 ショートステイ 彩幸 職員より「可愛い金魚ちゃん♡」



ショートステイでは7月から、施設長が水槽を寄付してくれたので金魚を飼っています。

豊橋 ケアハウス 彩幸 職員より「秋のお出かけ」



毎年、お出かけ行事という結構遠くへ出かけていたのですが、今年は近場でゆっくりしようということで、とんかつの武蔵でうなぎ百合かご膳を召し上がっていただきました。

彩幸 ケアハウス デイサービスセンター

豊橋 デイサービスセンター 彩幸 職員より「秋のお出かけ・おやつ作り」



「田原まつり会館」へ行きました。田原祭りに歩く山車が展示されています。その他、手筒花火も飾られており、男性利用者が懐かしき昔の話をして下さいました。

豊橋 居宅介護支援事業所 彩幸 利用者様より「キラリ☆輝き人」



朝倉 松枝さん(102歳)



今回の「キラリ☆輝き人」は、なんと102歳でお元気に一人暮らしをされている朝倉松枝さんにインタビューをさせて頂きました。

彩幸 居宅介護支援事業所 地域包括支援センター

豊橋 彩幸地域包括支援センター 職員より「地域の防災活動に参加して」



太平洋に面する五並地区では、昨年から大規模地震に備え、自治会が中心となって防災対策に力を入れています。

豊橋 特別養護老人ホーム 大清水 彩幸 職員より 日常のひとつコマ



近頃の喫茶店へちよと外出。甘いものは別腹ですね。〜毎年恒例〜 秋の文化交流会

大清水 彩幸 特別養護老人ホーム グループホーム

豊橋 グループホーム 大清水 彩幸 職員より ほっこりする風景



日常の少しほっこりする風景をお知らせします。共同活動への参加の様子は皆さんそれぞれ異なりますが、賑やかに暮らしています。